

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

選択, 記述, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴と昨年度との違い

論述問題(25字)が出題されている。

その他トピックス

〔IV〕問2 核酸塩基の構造を選択させる問題が出された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	選択 記述	酸化還元 金属イオン	化学基礎 化学	問1 酸化還元, 電池 問2 金属イオンの系統分離, 溶解度積	標準
〔II〕	記述	気相平衡 単分子膜法	化学基礎 化学	問1 N_2O_5 の分解反応, NO_2 と N_2O_4 の気相平衡 問2 飽和脂肪酸を用いた単分子膜法	標準
〔III〕	選択 記述	脂肪族化合物 芳香族化合物	化学	問1 スルファニル酸, オレンジIIの合成 問2 芳香族化合物($\text{C}_{10}\text{H}_{12}\text{O}_2$)の構造決定	標準
〔IV〕	選択 記述 論述	合成高分子 核酸(DNA)	化学	問1 ポリビニルアルコールの合成と性質 問2 核酸塩基の構造, 塩基対, 水素結合	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本～標準的な問題が多いが、細かい知識や考察力を要する問題や、論述・描図問題、文字式を含めた煩雑な計算問題も出題される。対策としては、教科書の基本事項を確認し、問題演習を通じて知識の定着を図ることが必要である。また、難しい問題が出題されることもあるので応用力をつけておきたい。論述問題の対策として日頃から文章を書き、問われていることに対して明確に、かつ、簡潔にまとめる練習をしておくことが大切だろう。